



令和元年度

# 安曇野市 協働事業事例集

---



安曇野市 市民生活部 地域づくり課



## 1 協働事業事例集の趣旨・目的

近年、少子高齢化の進展、人口減少等、社会情勢が変化する中で、地域の課題や市民のニーズは多様化・複雑化しています。市民が安全・安心に、心豊かに暮らせる地域づくりを進めていくためには、市民や区など自治会、市民活動団体、企業、教育機関、行政等、特性の異なる主体同士が、お互いの特性の違いを認め合い、対等な関係の中で、それぞれの強みを生かし、弱みを補完し合う「協働」によるまちづくりが求められています。

そのような背景から、平成 29 年 4 月には「安曇野市自治基本条例」の施行、平成 31 年 3 月に第 2 次協働推進計画の策定と、協働を進めるための仕組みづくりに努めており、市内各部局においては、それぞれ公共サービスの充実や市政の効率化に資する協働事業に積極的に取り組んでいます。

この協働事業事例集では、令和元年度に各部局で協働事業として実施された事業の情報を収集し、掲載しています。「協働」することは目的ではなく、課題解決に向けた手段のひとつです。この事例集が、本市における協働推進の参考となり、それぞれの取り組みがより充実されることを期待して作成するものです。

## 2 対象とした協働事業

市民と行政がお互いの持つ特性を活かし、不足を補いながら、共に公共サービスの充実や市政の効率化に活かすなどの協働の視点で実施した事業。

### (1) 協働の形態

共催、実行委員会、事業協力（協定）

### (2) 行政（市）と協働するパートナー

自主的に地域の課題解決に携わる法人、団体等（国、地方公共団体、独立行政法人を除く）

（例）区（自治会）、PTA、企業、学校法人、社会福祉法人、医療法人、商工会議所・商工会  
NPO、消防団、農業協同組合等

## 安曇野市ではどのように協働のまちづくりを進めているの？

### ◆安曇野市自治基本条例◆

安曇野市では、協働のまちづくりのより一層の推進を図るため、平成29年4月に「安曇野市自治基本条例」を制定しました。条例制定の過程では、市民、職員を含めた100人ワークショップを開催するなど、多くの市民参画により検討を進めてきました。

この条例は安曇野市における自治の基本理念や市政運営の基本原則を定めていることから、市の最高規範として位置付けられています。また、市民、市議会、市の三者の枠組みにおける協働の仕組みを示すと共に、それぞれの責務・役割等について定めています。

### ◆協働のまちづくりを推進するための計画を策定しています◆

安曇野市では、「安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画」(以下、「協働推進計画」という。)を策定し、協働のまちづくり推進の具現化を図っています。令和元年度に5年間を計画期間とする第2次協働推進計画がスタートしました。

協働のまちづくりの理念及びその定義を下記のように示しており、3つの基本方針を掲げて様々な施策に取り組みます。

#### みんなが主役ではじまる 協働のまちづくり

協働のまちづくりは、私たち一人ひとりが心豊かに幸せに暮らすため、環境や考え方など特性の異なる主体同士が、目的や課題を共有し、それぞれの特性を活かし、主体的・自発的に、役割を担い合い、対等な立場で連携することです。

#### (3つの基本方針)

1. 協働の意識づくりと主体的な市民活動の促進
2. 情報共有の仕組みづくり
3. 協働のコーディネート機能の充実に向けた人財の発掘・養成




令和元年度実施個別協働事業一覧

目次

ページ	事業名	協働の相手方	事業担当課
4	安曇野市自転車での健康づくり実証実験 サイクリングで健康チャレンジ事業	松本大学	政策部 政策経営課
5	男女共同参画フォーラム 2019	男女共同参画推進会議・コミュニケーター・JA あづみ・JA 松本ハイランド・人権擁護員協議 会安曇野部会・国際女性教育振興会中信地 区会	総務部 人権男女共同参 画課
6	日本語 de スピーチ大会	あづみの国際化ネットワーク	
7	あづみの国際 DAY2019 !	あづみの国際化ネットワーク	
8	安曇野・日本語交流員養成講座	あづみの国際化ネットワーク	
9	多文化共生フェスティバル	安曇野市国際交流協会	
10	安曇野環境フェア 2019	安曇野環境フェア実行委員会	市民生活部 環境課
11	不用食器リサイクル	不用食器リサイクル実行委員会	市民生活部 廃棄物対策課
12	常念フェスティバル	常念フェスティバル実行委員会	市民生活部 堀金地域課
13	アルプス花街道	アルプス花街道実行委員会	市民生活部 地域づくり課
14	あづみ野祭り	あづみ野祭り実行委員会	
15	光城山 1000 人SAKURA プロジェクト	光城山 1000 人SAKURA プロジェクト	
16	「協働のまちづくり市民活動支援事業」 様々な市民活動団体の情報を冊子にまとめ、繋げ よう！～繋がろう安曇野市:市民活動団体の輪！～	世代を超えて地域と共に歩む会	
17	令和元年度安曇野市区長会研修会にお ける交流会	安曇野市区長会	
18	災害時住民支え合いマップ作成研修会	社会福祉法人 安曇野市社会福祉協議会	福祉部 長寿社会課

19	地域で共に生きようフェスティバル	地域で共に生きようフェスティバル実行委員会	福祉部 福祉課
20	地域支え合い推進フォーラム	社会福祉法人安曇野市社会福祉協議会 NPO 法人 JA あづみくらしの助け合いネットワークあんしん	保健医療部 介護保険課
22	第 36 回 早春賦まつり	早春賦まつり実行委員会	商工観光部 観光交流促進課
23	第 5 回 信州安曇野ハーフマラソン事業	信州安曇野ハーフマラソン実行委員会	
24	第 36 回 信州安曇野わさび祭り	信州安曇野わさび祭り実行委員会 YOSAKOI 安曇野実行委員会	
25	第 13 回 安曇野花火	安曇野花火実行委員会	
26	信州安曇野田んぼアート 2019	信州安曇野田んぼアート実行委員会	
27	ご当地グルメ事業	安曇野調理師会 安曇野市商工会	
28	信州安曇野北アルプスパノラマ銀座 山岳フェスタ 2019	安曇野市山岳観光推進実行委員会	
29	第 10 回 安曇野市民スポーツ祭	安曇野市民スポーツ祭実行委員会	教育部 生涯学習課
30	童謡祭り	童謡祭り実行委員会	
31	安曇野市の歴史文化遺産の再発見事業	安曇野市の歴史文化遺産再発見事業実行委員会	教育部 文化課
32	安曇野市ミュージアム活性化事業	安曇野市ミュージアム活性化事業実行委員会	
33	『安曇野文化』刊行事業	安曇野文化編集委員会	
34	第 15 回 あづみの公園早春賦音楽祭	早春賦音楽祭実行委員会	
35	第 29 回 信州安曇野能楽鑑賞会	信州安曇野薪能実行委員会	

**【事業の名称等】**

事業の名称		安曇野市自転車での健康づくり実証実験サイクリングで健康チャレンジ事業	
協働の形態		1. 共催      2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会   4. その他（      ）	
実施団体	相手側	学校法人松商学園   松本大学	
	市側	政策部政策経営課 企画担当（担当）	

運動指導の様子

**【事業の概要】**

取組の背景・課題	市では、自転車を活用したまちづくりを進めている。自転車に関する様々な取り組みの中の1つとして、自転車での健康づくり実証実験を行った。地域貢献を理念とし、教育研究を通じた地域社会への貢献を目標としている松本大学と連携協定を結び、地域との連携の実践として取り組んだ。		
事業の目的	自転車を日常生活で活用することで、健康増進につながるか、健康づくりのためにはどのような自転車の乗り方が効果的なのか検証する。		
成果目標	自転車による健康効果の検証		
実施場所	堀金総合体育館外	事業期間	平成31年4月1日～令和4年3月31日
事業の概要	希望する市民を公募し、自転車を日常生活の足として活用することにより、健康増進に寄与するのか3年間の実証実験を行うもの。参加者にはGPS機能付活動量計を貸与し、通勤や買い物など日常生活で積極的に自転車に乗っていただく。検証期間中は活動量計のデータを基に運動指導や栄養指導、自転車の専門家による自転車指導を月1回開催する。初回と最終回の教室で体力測定を行い、健康効果を検証する。		


**【協働の役割分担】**

役割分担	一緒の取組	実証実験教室の開催
	相手側	実証実験教室の運営、実験結果の検証
	市側	事務（運営補助、参加者への事務連絡等）

**【実施結果】**

成果目標の達成状況	達成できた
協働による効果	専門的な観点から運動指導等を行っていただいたため、参加者のモチベーションアップを図ることができ健康増進に繋がった。
課題・改善点	参加者が25名と少なかつたため、来年度は参加者を増やし2年目の健康効果を検証したい。

### 【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市男女共同参画フォーラム 2019	
協働の形態		1. 共催            2. 事業協力（協定） ③. 実行委員会   4. その他（    ）	
実施団体	相手側	安曇野市男女共同参画 フォーラム実行委員会	
	市側	総務部 人権男女共同参画課 人権男女共生 担当	

SDGs 講演 講師：太田副知事

### 【事業の概要】

取組の背景・課題	男女共同参画社会づくりの推進事業として、市民と行政が共にフォーラムを開催する事で共通の課題について、情報を共有し、取組を進めることができる。また、実行委員会の形態をとることで、個別の団体が交流しネットワークが広がるきっかけになっている。		
事業の目的	誰ひとり取り残さない男女共同参画の推進方法を学ぶ		
成果目標	安曇野市で、女性が活躍する環境づくりを進めるには何が必要か学ぶ		
実施場所	市役所 大会議室	事業期間	令和元年 7 月 13 日
事業の概要	<p>実行委員会の構成団体と市が協力し、同じ目的の実現を目指し取組を行うことで、相互理解が進む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SDGs ジェンダー平等について理解を深める</li> <li>・ 安曇野市の未来に、ジェンダー平等を進める方法をさぐる</li> <li>・ 実際に活躍している方から先進事例紹介をお聞きし取組方法を学ぶ</li> </ul>		


### 【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	実行委員開催 4 回（日程・企画・運営・広報・会場設営など検討）
	相手側	事業運営全般（受付・会場案内・進行・講師等接待・会場設営・講師謝礼など）
	市側	事務局（会場提供・講師及びパネリスト連絡調整・プレスリリース・広報など）

### 【実施結果】

成果目標の達成状況	参加者約 80 人。例年より、男性参加者が増加した。SDGs について理解を深め、ジェンダー平等について市民とともに学ぶ事ができた
協働による効果	共通目的を共有することで、各組織間の理解も進み色々な視野が入ったフォーラムとなった
課題・改善点	現役世代の参加者を増やす取組が必要

### 【事業の名称等】

事業の名称		日本語 de スピーチ大会	
協働の形態		①. 共催            2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会   4. その他（     ）	
実施団体	相手側	あづみの国際化ネットワーク	
	市側	総務部   人権男女共同参画課 人権男女共生係	

来場者とのコミュニケーションタイム

### 【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市には1,300人余の多国籍市民が生活をしており、2,000人を超える外国人観光客が毎年訪れている。グローバル化する社会に対応するため、多文化共生の推進を図る必要がある。		
事業の目的	安曇野市民と市内に暮らす外国籍市民のお互いの交流と理解を目指す多文化共生の推進を図る。		
成果目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安曇野市民と市内に暮らす外国籍市民の交流と理解を促進する。</li> <li>・来場者数を増やす。</li> </ul>		
実施場所	安曇野市役所大会議室	事業期間	令和元年8月4日
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安曇野市内に暮らす外国籍市民が日頃思っていることを日本語でスピーチする。</li> <li>・世界の国々の様子についてクイズを出題する。</li> </ul>		

### 【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	イベントの企画、会場の準備・片付け
	相手側	外国籍住民への参加交涉及び広報、チラシの作成
	市側	市民への広報、会場の確保、音響設備等の操作

### 【実施結果】

成果目標の達成状況	市内に在住する外国籍市民と日本国籍市民の双方からのスピーチがあり、交流と理解の促進が図られた。
協働による効果	協働でイベントを開催することにより来場者数を少しではあるが昨年度よりも増やすことができた。
課題・改善点	集客のためにSNSを利用するなどの新たなPR方法の検討が必要である。



### 【事業の名称等】

事業の名称		あづみの国際DAY2019!		
協働の形態		1. 共催                      2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会    4. その他（                      ）		
実施団体	相手側	あづみの国際化ネットワーク		
	市側	総務部 人権男女共同参画課 人権男女共生係		

歌のステージ発表

### 【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市には1,300人余の多国籍市民が生活をしており、2,000人を超える外国人観光客が毎年訪れている。グローバル化する社会に対応するため、多文化共生の推進を図る必要がある。		
事業の目的	安曇野市民と市内に暮らす外国籍市民のお互いの交流と理解を目指す多文化共生の推進を図る。		
成果目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安曇野市民と市内に暮らす外国籍市民の交流と理解を促進する。</li> <li>・来場者数を増やす。</li> </ul>		
実施場所	安曇野市穂高会館	事業期間	令和元年10月13日
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽、ダンスなどの多国籍パフォーマンスをステージで発表する。</li> <li>・多国籍料理の試食を行う。</li> <li>・各国展示ブースでパネルなどにより文化の紹介をする。</li> <li>・外国籍住民の仕事、生活なんでも相談室を開設する。</li> </ul>		


### 【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	イベントの企画、会場の準備・片付け
	相手側	外国籍住民への出演交渉及び広報、チラシ・ポスターの作成、料理等の経費負担
	市側	安曇野市民への広報、会場の確保、市ブースの出展、ステージ発表

### 【実施結果】

成果目標の達成状況	台風19号の影響により昨年度より来場者数は減少したが、交流と理解を深めることができた。
協働による効果	協働でイベントを開催することにより多文化共生への協力体制が強化された。
課題・改善点	開催時期が10月であるため、天候等を注視しつつ、早目の準備を心掛ける必要がある。

### 【事業の名称等】

事業の名称		安曇野・日本語交流員養成講座	
協働の形態		1. 共催            2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会   4. その他（        ）	
実施団体	相手側	あづみの国際化ネットワーク	
	市側	総務部   人権男女共同参画課 人権男女共生係	

第4回講座の様子

### 【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市には1,300人余の多国籍市民が生活をしており、2,000人を超える外国人観光客が毎年訪れている。グローバル化する社会に対応するため、多文化共生の推進を図る必要がある。		
事業の目的	安曇野市内に暮らす外国籍住民が言葉や生活に慣れるための支援活動を行うボランティアを養成する。		
成果目標	・養成講座受講後に日本語教室等で活動できるボランティアを増やす。		
実施場所	豊科交流学習センター	事業期間	R元. 11. 10~R元. 12. 22
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語交流員養成に必要な講義形式の講座を5回開催する。</li> <li>・講座受講者全員で岐阜県可児市国際交流センターへ先進地視察に出かける。</li> </ul>		


### 【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	イベントの企画、会場の準備・片付け
	相手側	講座講師への講演依頼、講座資料の作成、広報チラシの作成、バスの借上げ
	市側	市民への広報、会場の確保、講座資料の印刷、補助金の支払い

### 【実施結果】

成果目標の達成状況	21名が受講し、この内17名が受講終了することができた。
協働による効果	協働で講座を開催することにより内容の充実した養成講座にできた。
課題・改善点	来年度は17名の受講終了者を中心に現在活躍されている日本語交流員を対象としたステップアップ講座を共催で開催する予定である。

### 【事業の名称等】

事業の名称		多文化共生フェスティバル		
協働の形態		①. 共催                      2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会          4. その他（            ）		
実施団体	相手側	安曇野市国際交流協会		
	市側	総務部 人権男女共同参画課 人権男女共生係		

フェスティバル終了後の記念撮影

### 【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市には1,300人余の多国籍市民が生活しており、2,000人を超える外国人観光客が毎年訪れている。グローバル化する社会に対応するため、多文化共生の推進を図る必要がある。		
事業の目的	安曇野市民と市内に暮らす外国籍市民のお互いの交流と理解を目指す多文化共生の推進を図る。		
成果目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安曇野市民と市内に暮らす外国籍市民の交流と理解を促進する。</li> <li>・来場者数を増やす。</li> </ul>		
実施場所	安曇野市三郷公民館	事業期間	令和元年10月20日
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安曇野市内に暮らす外国籍市民が日頃思っていることを日本語でスピーチする。</li> <li>・多国籍料理の試食を行う。</li> <li>・音楽、ダンスなどの多国籍パフォーマンスをステージで発表する。</li> </ul>		


### 【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	イベントの企画、会場の準備・片付け
	相手側	外国籍住民への出演交渉及び広報、チラシ・ポスターの作成、料理等の経費負担
	市側	安曇野市民への広報、会場の確保、チラシ・ポスターの印刷

### 【実施結果】

成果目標の達成状況	前年度並みの来場者数であったが、安曇野市民と市内に暮らす外国籍市民の交流と理解を促進することができた。
協働による効果	協働でイベントを開催することにより多文化共生への協力体制が強化された。
課題・改善点	同時期に同様のイベントがあったため、開催時期を調整する必要がある。

### 【事業の名称等】

事業の名称		安曇野環境フェア 2019	
協働の形態		1. 共催                      2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会    4. その他（            ）	
実施団体	相手側	安曇野環境フェア 2019 実行委員会	
	市側	市民生活部 環境課 環境政策係（担当）	

安曇野環境フェア 2018 の様子

### 【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市環境基本計画策定を機に、計画推進の一助として安曇野市内外で環境に関する活動を展開されている皆さんの活動紹介の場を設けたい。		
事業の目的	フェア開催により、市環境基本計画で定められた取り組みを広く紹介するとともに、出展者と来場者の交流を深め、これまで参加していなかった人も巻き込みながら、つながりの環を広げていくこと。		
成果目標	安曇野環境フェアの来場者数 1日目 1100人 2日目 900人 計 2,000人		
実施場所	安曇野市堀金総合体育館	事業期間	平成 31 年 2 月 ～ 令和元年 10 月
事業の概要	安曇野環境市民ネットワークを中心に、環境基本計画、環境フェアの趣旨、理念に賛同する者によって実行委員会を組織し、フェアの企画、準備、広報、運営を行政と協力して行う。		


### 【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	企画・立案、準備～当日の運営、チラシなどの検討・配布
	相手側	メディア対応
	市側	会場・設備手配、出展者募集・決定、講師・後援などの依頼

### 【実施結果】

成果目標の達成状況	台風 19 号の接近に伴い、参加者・来場者の安全を考慮した結果、中止を判断
協働による効果	市民目線の企画・立案 実行委員の人脈やアイデアによる人材や企画の広がり
課題・改善点	新規の協力者、若い世代の協力者、活動の掘り起こし 企画の恒常化

### 【事業の名称等】

事業の名称		不用食器リサイクル活動	
協働の形態		1. 共催                      2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会            4. その他（            ）	
実施団体	相手側	安曇野市不用食器リサイクル実行委員会	
	市側	市民生活 部 廃棄物対策 課 廃棄物対策 担当	

### 【事業の概要】

取組の背景・課題	家庭から排出される食器はごみとして埋め立て処分されるが、ごみ減量化・循環型社会形成の観点から、埋め立て処分を減らすことが求められている。		
事業の目的	不用食器の再利用及び再資源化により、ごみの減量を図り循環型社会の形成を促進する。		
成果目標	市民と協働で不用食器の回収を行ってリユースの場を提供し、ごみの減量化と資源の有効活用につなげる。		
実施場所	豊科県民グラウンド駐車場	事業期間	令和元年9月22日～9月23日
事業の概要	<p>令和元年9月22日に不用食器の回収を行い、同会場に配布スペース（「もったいない市」）を設け、同日から翌23日の間希望者に配布した。</p> <p>また、10月12・13日開催の安曇野市環境フェアでも「もったいない市」を実施し、不用食器の配布を行う予定であったが、台風19号の影響で環境フェアが中止となったため実施出来なかった。しかし、各実行委員によって他のイベント等での配布等も行われ、配布した食器の総量は概ね4トンと見込まれた。</p> <p>また、回収した食器の内約4.2トンを、陶土の原料として再資源化するため、岐阜県土岐市の処理業者に運搬し、資源の有効活用を図った。</p>		


### 【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	会場準備・片付け
	相手側	不用食器の仕分けや搬入者の誘導等、再利用スペースの運営
	市側	回収場所の提供、不用食器の運搬・運搬費用の負担・住民への広報

### 【実施結果】

成果目標の達成状況	十分に達成できた。
協働による効果	役割分担により、事業を効果的に実施することができた。
課題・改善点	雨天となった場合の対応について、より詳しく確認しておいた方が良いと思われる。

## 【事業の名称等】

事業の名称		常念フェスティバル		
協働の形態		1. 共催                      2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会            4. その他（            ）		
実施団体	相手側	常念フェスティバル実行委員会		
	市側	市民生活部 堀金地域課		

大盛況 常念子ども食堂

## 【事業の概要】

取組の背景・課題	<p>地域住民が一体となれる「祭り」というイベントを多世代の市民が多く集うことができるような場を設定して元気で明るく住みやすい堀金の地域コミュニティづくりを構築する。</p> <p>地域密着型のイベントとするため実行委員会を組織し、地区公民館や地域住民に出店・活動発表をしていただく団体・個人を公募し、開催を図っていく。堀金地域の住民を核として、参加者全員が自ら創り上げる「祭り」を目指す。</p>		
事業の目的	地域コミュニティの基礎づくり		
成果目標	地域住民が一体となれる「夏祭り」		
実施場所	堀金多目的屋内運動場 堀金中央公園	事業期間	8月31日
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フリーマーケット・体験部門・農産物、加工品の販売・各種団体発表</li> <li>・仮装行列・子ども食堂・「チャレンジ！ 常念ギネスに挑戦」・カラオケ大会</li> <li>・パトカー、白パイに乗ってみよう・サポートカー体験 他</li> </ul>		


## 【協働の役割分担】

役割分担	一緒に取組	会場の設営、イベントの開催
	相手側	常念フェスティバル実行委員会
	市側	市民生活部 堀金地域課

## 【実施結果】

成果目標の達成状況	実行委員の資金集め、地域住民の参画などにより、地域の住民を核とし参加者全員で自ら創り上げる「祭り」が実施できた。
協働による効果	低予算の為、行政で貸出出来る物品は購入又はレンタルをすることなく、支出を抑えることが出来た。また実行委員だけでは準備等に人手が足りず、地域課からノウハウを持った職員が関わることでスムーズな準備ができた。
課題・改善点	開催時期が毎回（3回開催）異なっているため、事業の認知度が低いように思う。また参加者も開催時期が定まらないため、予定が立てづらく、他のイベント等と重なってしまい、参加してもらえない状況があった。まずは開催時期を固定することでフェスティバルの認知度を上げ、参加者（特に地域住民）を増やす。

**【事業の名称等】**

事業の名称		アルプス花街道事業	
協働の形態		1. 共催            2. 事業協力（協定） 3. <b>実行委員会</b> 4. その他（        ）	
実施団体	相手側	アルプス花街道実行委員会	
	市側	市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進係	

マリーゴールドの生育状況等の巡視

**【事業の概要】**

取組の背景・課題	安曇野を訪れる皆さんを気持ちよくお迎えしようという機運が長野五輪を機に高まった。潤いのある地域づくりに向けて、市民と行政と一緒に汗を流し、協働によるまちづくりが必要とされている。		
事業の目的	安曇野へ訪れる人々を歓迎するとともに、自然と人にやさしいまちづくりを推進するため、住民の創意工夫による美しい景観の形成を目指す。		
成果目標	マリーゴールドの植栽及び除草等の管理により沿道の景観美化を維持する		
実施場所	市内9か所の沿道（県道柏矢町田沢停車場線ほか）及び市老人クラブ連合会活動区画	事業期間	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日
事業の概要	市内9か所の沿道等でマリーゴールドの植栽及び除草等の管理を行い、景観形成に努める。毎年参加を希望する個人・団体により実行委員会を構成し、それぞれ担当区画を受け持ち、定植・水やり・除草等の管理を行う。一部か所は、県、団体、市の三者でアダプトシステム協定を締結し、実施している。		


**【協働の役割分担】**

役割分担	一緒の取組	マリーゴールドの植栽等沿道管理
	相手側	実行委員会の運営、事務局
	市側	委託料の支払、参加団体の取りまとめ、広報、事務局の補佐等

**【実施結果】**

成果目標の達成状況	83 団体（1,360 名）の参加により、沿道の景観美化に努めることができた。
協働による効果	市民と行政が目的を共有し、多くの団体等の主体的な参加により安曇野市の景観形成に取り組むことができた。
課題・改善点	高齢化等により担い手が減少しており、新たな担い手の発掘が課題となる。

### 【事業の名称等】

事業の名称		あづみ野祭り	
協働の形態		1. 共催            2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会    4. その他（        ）	
実施団体	相手側	あづみ野祭り実行委員会	
	市側	市民生活部 地域づくり課 豊科地域係	

当日の踊り連の様子

### 【事業の概要】

取組の背景・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元商店街の活性化が求められている。</li> <li>・ 地域で盛り上がりやにぎわいを創出する必要がある。</li> </ul>		
事業の目的	あづみ野祭りをとおして市民の連帯感と「心のふるさと」づくりに努め、観光の促進と文化厚生の発展に資し、かつ、産業経済の進展に寄与すること。		
成果目標	①踊り連の参加を促進し 40 連以上の参加を募る。②踊りのコンテストを実施し、伝統文化の啓発を行う。③各団体があづみ野祭り参加に向けあづみ野ばやし踊りを練習することにより文化の伝承が図られる。		
実施場所	国道 147 号（成相～新田） 及び豊科駅前通り（市川歯 科～八十二銀行）	事業期間	平成 31 年 4 月 1 日 ～令和 2 年 3 月 31 日
事業の概要	国道 147 号を中心にあづみ野ばやし踊りの踊りを実施する。地区公民館をはじめ、市内各所から参加者を募集する。踊りの練習会やコンテストも企画し、観光の促進、伝統文化の継承を行う。あづみ野祭りに際し、商店街などの産業振興も図る。		

### 【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	事務局の運営、交通防災対策、あづみ野祭りの企画立案
	相手側	会計、商工業者との調整
	市側	補助金の交付、会場等の手配

### 【実施結果】

成果目標の達成状況	台風による荒天のため途中で中止となったものの、地区公民館や地元企業などから 41 連の申し込みがあり、踊り練習をとおして伝統文化の啓発につながった。
協働による効果	お互いの特性を活かした運営により、上記の成果をあげることができた。
課題・改善点	社会情勢等の変化に伴う、事業のあり方及び事務局体制の見直し



【事業の名称等】

事業の名称		光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト	
協働の形態		1. 共催                      2. 事業協力（協定） 3. <u>実行委員会</u> 4. その他（            ）	
実施団体	相手側	光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト	
	市側	市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進係	

桜の植栽作業

【事業の概要】

取組の背景・課題	光城山の代名詞である桜が老木化しており、通称「昇り竜」を後世に残すために、早期の植え替えが望まれていた。桜の名所としての光城山を守り育てていくとともに、広く市民の郷土愛を育む。		
事業の目的	多くの方に愛され、魅力ある地域資源である光城山を後世に引き継いでいくために、市民と行政のそれぞれが出来ることを担い、できないことを補い合うこと、すなわち協働により課題解決を図り、また、プロジェクトの取り組みを通じて、協働の取り組みを全市的に広めていくこと		
成果目標	①桜の植樹（70 本）、②自然環境の保全に関する事業の実施、③歴史・文化の伝承に関わる事業の実施、④ SAKURA マルシェの実施		
実施場所	光城山	事業期間	平成 31 年 4 月 1 日 ～令和 2 年 3 月 31 日
事業の概要	地元財産区や地元区、NPO等と当プロジェクトを設立し、「桜分科会」、「動・植物分科会」、「歴史・文化分科会」、「事業推進分科会」の4つの分科会に分かれ、桜の植樹や周辺自然環境の保全、地域の歴史・文化の伝承等について研究し、各種事業を進めている。		


【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	植栽箇所の選定（現地踏査）、植栽事業準備作業、植栽事業運営
	相手側	植栽に向けた各種検討、鹿対策防護柵の作成、桜の育成管理 等
	市側	事務局（予算の執行、事業の推進管理、保険加入、植栽参加者のとりまとめなど）

【実施結果】

成果目標の達成状況	市民等やプロジェクト委員と共に桜 70 本の植栽を実施できた。自然環境に関する調査や歴史文化に関する研究が実施された。 SAKURA マルシェが実施できた。
協働による効果	役割分担により、効果的に事業が実施できた。
課題・改善点	多くの市民参画を得るための仕組みづくり

### 【事業の名称等】

事業の名称		「協働のまちづくり市民活動支援事業」 様々な市民活動団体の情報を冊子にまとめ、繋げよう！ ～繋がろう安曇野市：市民活動団体の輪！～	
協働の形態		1. 共催      ② 事業協力（協定） 3. 実行委員会    4. その他（      ）	
実施団体	相手側	世代を超えて地域と共に歩む会	
	市側	市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進係	

(完成した市民活動の情報誌)

### 【事業の概要】

取組の背景・課題	多様化・複雑化する地域課題を解決し、一人ひとりが生き生きと心豊かに暮らせる地域社会の形成するためには、市内で活動する様々な団体・組織による相互の連携・協働が欠かせないが、現状は積極的に連携ができる状況になっていない。		
事業の目的	各団体が相互の情報を共有し、お互いにつながり、支え合い、補い合うことで効率的・効果的に事業を推進できるよう支援の充実を図り、協働のまちづくりを推進する。		
成果目標	収集した情報を冊子にまとめ、広く配布し、市民活動の支援および協働推進に活用する。		
実施場所	市役所本庁舎 他	事業期間	令和元年5月14日～令和2年2月29日
事業の概要	提案団体と市が協働により、様々な市民活動団体に対してアンケート・取材を行い、それぞれの団体の事業目的や活動内容、抱えている課題、必要な支援等の情報を収集する。また、収集した情報を冊子にまとめ、市民活動のあらゆる支援に活用するとともに、市民活動団体相互の協働推進のツールとして活用する。		


### 【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	アンケート内容・情報誌の掲載内容・情報誌の活用方法の検討、情報誌校正、情報誌配布
	相手側	取材先の検討、取材、取材内容のまとめ
	市側	アンケート用紙印刷・送付・集計、情報誌の原稿作成、情報誌の印刷

### 【実施結果】

成果目標の達成状況	情報を冊子にまとめることはできたが、市民活動の支援や協働推進には至らなかった。
協働による効果	その都度調整しつつ役割分担を行い、事業を実施することができた。
課題・改善点	市民活動の支援や協働推進への活用には至っていないため、今後取り組んでいく。

### 【事業の名称等】

事業の名称		令和元年度安曇野市区長会研修会における交流会	 <p>(区長と事業所との交流)</p>
協働の形態		①. 共催                      2. 事業協力(協定) 3. 実行委員会              4. その他(                      )	
実施団体	相手側	安曇野市区長会	
	市側	市民活動サポートセンター 地域づくり課まちづくり推進係	

### 【事業の概要】

取組の背景・課題	近年、地域課題は複雑化・多様化してきており区だけでは解決できない課題があること、事業所においても地域との連携が必要という認識があり、それぞれの強みを生かしながら地域課題に取り組む契機にするため取り組んだ。		
事業の目的	区長と事業所の交流から相互連携の契機とする		
成果目標	双方の強みを生かしながら地域課題の解決に取り組んでいく		
実施場所	豊科交流学習センター きぼう	事業期間	令和元年7月2日～令和元年11月6日
事業の概要	区長会研修会の開催にあわせて、区長と事業所の交流会を開催することにより双方の接点を持つ機会とした。前半には、2事業所から地域との連携事例を発表いただき、後半は地域ごと集まり事業所とざっくばらんな交流を行った。		


### 【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	当日の交流事業運営
	相手側	区長への周知、事業計画立案
	市側	事業所への周知

### 【実施結果】

成果目標の達成状況	交流会は契機であり、効果は今後現れることを期待する。
協働による効果	地域(区)と地域資源(事業所等)との接点をもつことができた。
課題・改善点	交流会でできたつながりを継続させ、課題解決の取り組みへと発展するようフォローが必要となる。

### 【事業の名称等】

事業の名称		「災害時住民支え合いマップ」に関する研修会	
協働の形態		①. 共催                      2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会    4. その他（                      ）	
実施団体	相手側	安曇野市社会福祉協議会	
	市側	福祉部    長寿社会課    福祉政策担当	

ささえあいマップ研修会風景

### 【事業の概要】

取組の背景・課題	阪神淡路大震災、新潟中越地方の豪雨、地震の被害を受けて、内閣府では大都市だけでなく地方でも災害時の助け合いができなくなっていると判断された。		
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時に自分の住む地区で、住民全てが安全に避難するための情報を掲載する。</li> <li>・地域の状況や問題点を知り、日ごろからの地域の繋がりや支え合いを再認識するきっかけを作る。</li> </ul>		
成果目標	全ての区で毎年度更新ができること		
実施場所	各地域又は各区	事業期間	4/1～3/31
事業の概要	災害時にいつ、誰が、どのように安否確認、避難行動の支援等をするのかを考えるため、住民による話し合いを元に書き込んだ地図を作成する。		


### 【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	研修会の開催（主催、共催）
	相手側	関係者への通知・研修会主催・社協会費を財源とした特別活動配分金の受付及び交付
	市側	研修共催、参加・作成相談・マップコピー・作成、更新届出窓口

### 【実施結果】

成果目標の達成状況	取り組み状況は、毎年度末に把握する。
協働による効果	社協にはアドバイザーや専門職がいるので実務に直結でき、市は取り組みの補佐的な役割を担い、互いに情報を共有して相談支援体制を作っている。
課題・改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区の役員等が毎年替わるところもあり、マップの更新を継続的・定期的に行っていない地区があるので、毎年、マップ作成の目的や手順等を丁寧に説明する。</li> <li>・各地区の実情により、作成されるマップに差異があるため、各地区の実情を把握している地区社協が相談等を受けながら区、自主防災組織が災害時に有効な避難行動がとれるようなマップ作成を支援する。</li> </ul>

### 【事業の名称等】

事業の名称		地域で共に生きようフェスティバル		
協働の形態		1. 共催            2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会    4. その他（        ）		
実施団体	相手側	地域で共に生きようフェスティバル実行委員会		
	市側	福祉部    福祉課 障がい福祉担当		

令和元年度地域で共に生きようフェスティバル

### 【事業の概要】

取組の背景・課題	精神疾患・精神障害への正しい知識については未だ十分に浸透していない状況であり、精神障がい者の地域での自立や社会復帰を妨げる要因となっていることから、当事者を取り巻く環境の改善や障がいに関する理解の促進が課題となっている。		
事業の目的	精神疾患・精神障がいに関する普及啓発に関する活動		
成果目標	精神障がい者に対する肯定的なイメージの形成、偏見の除去・軽減		
実施場所	豊科交流学習センター きぼう	事業期間	～
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パネルディスカッションを通して一般の方にもわかりやすく精神障がいについて学ぶ機会を提供する。</li> <li>・安曇野市内の障がい福祉サービス事業所や事業所活動の周知</li> </ul>		


### 【協働の役割分担】

役割分担	一緒に取組	地域で共に生きようフェスティバルの開催
	相手側	実行委員会開催において具体的な実施計画の策定、イベント運営
	市側	会場調整・実施計画の策定

### 【実施結果】

成果目標の達成状況	イベントについては隔年での実施としており今後も啓発活動は継続する。
協働による効果	精神保健福祉に係る事業所等の情報共有
課題・改善点	予算の確保、一般市民の方に興味を持ってもらえるイベントの開催

### 【事業の名称等】

事業の名称		地域支え合い推進フォーラム	
協働の形態		1. 共催                      2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会    4. その他（                      ）	
実施団体	相手側	社会福祉法人安曇野市社会福祉協議会 NPO 法人 JA あづみくらしの助け合いネットワークあんしん	
	市側	保健医療部    介護保険課 介護保険担当	

### 【事業の概要】

取組の背景・課題	<p>少子高齢化・人口減少により、地域における支え合い、助け合いの必要性が増している。このような中、介護保険制度の改正により、住み慣れた地域で高齢者が自立した生活が送れるよう、住民同士の支え合いを推進する「生活支援体制整備事業」の仕組みがつけられた。</p>		
事業の目的	<p>生活支援体制整備事業を活用して、住民主体の取組が進むよう、支え合いの意義や必要性を伝えることで、これからの支え合いの地域づくりを推進する。</p>		
成果目標	<p>今回のフォーラムでは、「地域のつながりからみる健康長寿」をテーマに、事業の目的が達成されるよう以下を成果目標とした。</p> <p>①地域のつながりが健康長寿に影響していることを、実証データをもとに理解する。」</p> <p>②介護予防・健康づくりに取り組む3団体（老人クラブ、区、介護事業所）の取組を紹介し、他の地域、団体、事業者へも広げる機会とする。</p> <p>③生活支援体制整備事業における生活支援コーディネーター、協議体を周知し、活動の充実を図る。</p>		
実施場所	安曇野市役所大会議室	事業期間	R2. 2. 23～R2. 2. 23
事業の概要	<p>地域のつながりと健康長寿を考えるため、講師による基調講演と地域の支え合い活動の実践者の活動報告により、これからの支え合いや助け合いの地域づくりにつなげる。</p>		


### 【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	テーマ内容などの企画（講師選定、報告者選定）、当日の運営。
	相手側	生活支援コーディネーター・協議体の広報周知。関連団体へフォーラムの周知。
	市側	講師、報告者依頼。予算管理。全体調整、管理など。

## 【実施結果】

成果目標の達成状況	来場者数は想定を超える 250 名の参加があり、来場者アンケートでは講演について「とてもよかった」、「よかった」が 95%を占め、理解が深まり、有意義な講演となったことがうかがえた。また、パネルディスカッションにおいても、85%の方から「とてもよかった」、「よかった」との結果があった。講演、パネルディスカッションの間に生活支援コーディネーターの紹介の時間を設けるとともに、講演の時間の中でも、コーディネーターの活用の話があった。以上のことから、①～③ともに達成された。
協働による効果	地域福祉や地域づくりを進めている団体と協働して実施することで、多様な主体による多様な取組をつなげる、発信することができる。とくに、区を基盤とした支え合いや助け合いを支援していく機会にもなる。
課題・改善点	生活支援コーディネーター、協議体は、日々地域で活動をしている。フォーラムの機会などで周知をしていくことは引き続き重要である。活動から把握した地域の取組の紹介、地域の課題に対応した関心のあるテーマ設定をしていくことが重要である。フォーラムを一つのきっかけとしながら、日々の活動につなげ、関係団体のネットワークを広げていきたい。

**【事業の名称等】**

事業の名称		第 36 回早春賦まつり		
協働の形態		1. 共催            2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会   4. その他（        ）		
実施団体	相手側	早春賦まつり実行委員会		
	市側	商工観光部 観光交流促進課 観光交流促進係		

合唱の様子

**【事業の概要】**

取組の背景・課題	日本を代表する叙情歌「早春賦」を後世に歌い継ぐとともに、早春賦を愛する心を持つ市内の人による観光交流人口の拡大を図る。早春賦歌碑を知らない人・興味がない人にもイベントを通じて「早春賦」に関心を持ってもらう。		
事業の目的	叙情歌「早春賦」を後世に歌い継ぐ、観光客の誘客を図る。		
成果目標	県内外から来場者を集め、「早春賦」を歌い広める。		
実施場所	穂高川右岸 早春賦歌碑前	事業期間	4月29日（月・祝）
事業の概要	市内小学生・文化協会コーラス部合唱、アルパクラブ演奏、会場全体による早春賦大合唱。お茶やまんじゅう等のサービス。		

**【協働の役割分担】**


役割分担	一緒の取組	運営方法の決定、当日の運営、課題抽出。
	相手側	出演者・関係団体との調整。
	市側	各種申請・手配。出演者・関係団体との調整。

**【実施結果】**

成果目標の達成状況	市外からの来場者も多く、毎年訪れるリピーターがいるなど深い関心を持っている来場者も多かった。
協働による効果	実行委員会と市がそれぞれの役割を果たして事業を推進し、多くの来場者に訪れていただくことができた。
課題・改善点	会場が狭く収容人数の増大は見込めないため、事業規模の維持と誘客のバランスを取りながら、事業が形骸化しないよう取り組んでいく必要がある。



### 【事業の名称等】

事業の名称		第5回記念信州安曇野ハーフマラソン	
協働の形態		1. 共催                      2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会      4. その他（                      ）	
実施団体	相手側	安曇野市商工会	
	市側	商工観光部 観光交流促進課 観光交流促進係	

初夏の安曇野を満喫するランナー

### 【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野の魅力を発信し、交流人口の拡大を図るとともに、地域経済の活性化を図るため、全国からランナーを募集するとともに、市民や事業者、行政等が一体となった運営体制を構築する。		
事業の目的	安曇野の豊かな自然やそこに暮らす温かい人々の魅力を発信するとともに、市の一体感の醸成と地域経済の活性化を目的とする。		
成果目標	全国から参加するランナーに安曇野の自然や人の魅力を感じてもらい、安曇野ファンを獲得するとともに、市民についても大会運営への参画や応援を通じ、地域に対する誇りと愛着を持っていただく。		
実施場所	豊科南部総合公園	事業期間	平成31年10月～令和元年9月
事業の概要	拾ヶ堰や安曇野の田園地帯をコースとして、ハーフマラソンを実施する。安曇野ならではの食の提供などでランナーへのおもてなしを実施するとともに、市民についても運営ボランティアや応援などに参画していただく。		


### 【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	ランナーへのおもてなし、ボランティア募集、大会PR、協賛金募集など
	相手側	おもてなし、事業者との調整など
	市側	大会運営全般

### 【実施結果】

成果目標の達成状況	大会参加者の満足度も高く、800名を超える市民がボランティアに参加した。
協働による効果	双方が責任を持って自身の役割を果たすことにより、参加者に対しきめ細かな対応ができ、満足度の向上につながった。
課題・改善点	準備段階において、更なる情報交換・意見交換が必要である。

### 【事業の名称等】

事業の名称		第 36 回信州安曇野わさび祭り	
協働の形態		1. 共催            2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会    4. その他（        ）	
実施団体	相手側	信州安曇野わさび祭り実行委員会	
	市側	商工観光部 観光交流促進課 観光交流促進係（担当）小西 隆寛	

YOSAKOI 安曇野 信州大学「和っしょい」

### 【事業の概要】

取組の背景・課題	旧穂高町から続くイベントで、市民一体感の醸成や交流人口拡大のため実施している。納涼祭と YOSAKOI 安曇野の 2 つのイベントで構成しており、更なるイベントの充実・交流人口の拡大が課題である。		
事業の目的	穂高の夏のイベントとして定着してきた『信州安曇野わさび祭り』を通じて、観光客の誘客による交流人口の拡大を図るとともに、地域一体感の醸成を図る		
成果目標	多くの人に来ていただき、交流人口の拡大・経済の活性化を目指す。		
実施場所	穂高駅前通り	事業期間	H31.4.1 ~ R1.11.26
事業の概要	穂高地域の夏を盛り上げるイベントとして、8月に納涼祭、9月に YOSAKOI 安曇野を実施した。納涼祭では、分館連を中心に 29 連、約 2,000 名が穂高音頭・HOTAKA サンバを踊った。9月開催の YOSAKOI 安曇野は、初めて前夜祭と本祭の二日間開催とした。前夜祭はダンスや音楽の催しで盛り上げ、本祭は県内外から 30 チームが演舞を披露し、飲食ブースなども例年以上の盛り上がりとなった。		


### 【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	イベントの企画・運営
	相手側	イベントへの参加、募集案内
	市側	会場の設営・広報・庶務

### 【実施結果】

成果目標の達成状況	多くの方に来場していただき交流人口拡大に繋がった。
協働による効果	相乗効果により多くの市民・観光客に訪れていただくことができた。
課題・改善点	「納涼祭」と「YOSAKOI 安曇野」2つのイベントの方向性が違うことから、今年度を最後にわさび祭り実行委員会は解散となった。

**【事業の名称等】**

事業の名称		第 13 回安曇野花火		
協働の形態		1. 共催                      2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会            4. その他（            ）		
実施団体	相手側	安曇野花火実行委員会		
	市側	商工観光部 観光交流促進課 観光交流促進係		

安曇野花火打ち上げの様子

**【事業の概要】**

取組の背景・課題	旧 5 町村が合併したことをきっかけに、市民の一体感の醸成と市の振興を目的に商工会青年部などが中心となり開催。年々規模が大きくなっており、安全面や運営方法について検討が必要。		
事業の目的	市民の一体感の醸成と、郷土の振興を目的とする。		
成果目標	安曇野花火を通じた観光交流人口の拡大。		
実施場所	明科御宝田遊水池周辺	事業期間	8 月 14 日（水）
事業の概要	明科の御宝田遊水池周辺を会場として花火大会を開催する。周辺の交通規制や臨時駐車場からのシャトルバス運行などで安全な大会運営を行う。		


**【協働の役割分担】**

役割分担	一緒の取組	運営方法決定、当日の運営、課題の抽出。
	相手側	各部会による事業準備、運営。
	市側	各種申請、関係団体調整。

**【実施結果】**

成果目標の達成状況	市内外から約 2 万人が訪れており、観光交流人口の拡大に寄与している。
協働による効果	実行委員会と市がそれぞれの役割を果たして事業を推進し、大きな誘客効果があった。
課題・改善点	実行委員会と市が役割を明確にし、緊急時の対応などより安全な大会運営を行う必要がある。 会場規模、立地条件に限られており、需要拡大に対応するには限界がある。

### 【事業の名称等】

事業の名称		信州安曇野田んぼアート 2019	
協働の形態		1. 共催                      2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会    4. その他（                      ）	
実施団体	相手側	信州安曇野田んぼアート実行委員会	
	市側	商工観光部 観光交流促進課 観光交流促進係（担当）	

信州安曇野田んぼアート「テーマ：いだてん」

### 【事業の概要】

取組の背景・課題	今年度が初開催のイベントで、2019年から2020年までの2年間、安曇野市内において「田んぼアート」を実施する。NHK大河ドラマ『いだてん』を題材にし、市内の東京オリンピック・パラリンピックに向けた機運を高める。来年度の絵柄は『御嶽海関』で決定しており、長野県を元気にするという想いを込め実施する。		
事業の目的	水田をキャンパスに見立て、色の違う稲で絵を描くアートイベント「田んぼアート」という新しい素材を活用して、「信州 安曇野」の魅力を全国に発信する。		
成果目標	多くの人に観覧いただき、交流人口の拡大・経済の活性化、文化・農業の振興を図る。		
実施場所	安曇野スイス村	事業期間	H31.4.1 ~ R2.3.31
事業の概要	今年度が初開催だったが、北アルプスと屋敷林を借景とした安曇野らしい田んぼアートで県内外から6万人以上の来場があった。アート制作段階から市民に参加いただき、地域の連帯感と活性化につながった。田植えイベントの他に収穫祭を行うなど、新たな観光イベントとして盛り上がった。		


### 【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	イベントの企画・運営
	相手側	アートの制作、団体客の誘客、イベントへの参加、
	市側	会場の設営・広報・庶務

### 【実施結果】

成果目標の達成状況	多くの方に来場していただき交流人口拡大に繋がった。
協働による効果	相乗効果により多くの市民・観光客に訪れていただくことができた。
課題・改善点	観覧者の増加を図るとともに、市民・地元住民の関りを広げていく。

**【事業の名称等】**

事業の名称		ご当地グルメ事業		
協働の形態		1. 共催                      2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会      4. その他（メニュー開発）		
実施団体	相手側	安曇野調理師会、安曇野市商工会		
	市側	商工観光部 観光交流促進課 観光交流促進担当		

あづみ野リンゴナポリタン

**【事業の概要】**

取組の背景・課題	安曇野林檎ナポリタンは市、安曇野調理師会、安曇野市商工会飲食分科会、松本大学矢内研究室等の協力により平成 25 年に開発したご当地グルメ。安曇野産林檎を使用することが条件。		
事業の目的	ご当地グルメの開発、提供及び振興		
成果目標	飲食店での安曇野林檎ナポリタンの提供・認知度の向上		
実施場所	市内各所	事業期間	平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日
事業の概要	各提供店舗での林檎ナポリタンの提供。 参加店の勧誘、PR チラシ・ポスター等の作成、イベント等での PR 活動、広報。		


**【協働の役割分担】**

役割 分担	一緒の取組	事業全般
	相手側	事業の企画・運営
	市側	資料・PR チラシ等の作成、広報

**【実施結果】**

成果目標の達成状況	2019 年度は市内外 15 店舗にて提供。提供店が新たに 1 店舗増加した。また、新そばと食の感謝祭では「旨いものブース」に 4 店舗が出店し、林檎ナポリタンの PR を行った。
協働による効果	事務作業、役割分担による効率化
課題・改善点	認知度の向上

**【事業の名称等】**

事業の名称		信州安曇野北アルプスパノラマ銀座 山岳フェスタ 2019	
協働の形態		1. 共催                      2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会            4. その他（            ）	
実施団体	相手側	安曇野市山岳観光推進実行委員会	
	市側	商工観光部 観光交流促進課 観光交流促進担当	

山岳講座

**【事業の概要】**

取組の背景・課題	平成 26 年「信州山の日」、平成 28 年国民の祝日「山の日」施行を受け、山岳観光振興の一層の推進を図っていく事業の一つとして企画。		
事業の目的	北アルプスパノラマ銀座の魅力発信及び安全登山の啓発。		
成果目標	北アルプスエリア（山岳・平地）の魅力発信、登山客層の拡大。		
実施場所	安曇野スイス村 サンモ リッツ	事業期間	5 月 18 日（土）～19 日（日）
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 役立つ講座・アウトドア用品の展示販売</li> <li>・ 山岳観光関係団体 PR・相談ブース</li> <li>・ ワークショップ等</li> </ul>		


**【協働の役割分担】**

役割分担	一緒の取組	運営
	相手側	PRブース・企画
	市側	運営全般

**【実施結果】**

成果目標の達成状況	2 日間で 3,500 人余の幅広い年齢層の方に参加いただいた。
協働による効果	それぞれの立場で知識、人脈、ノウハウを活かすことができた。
課題・改善点	事業継続性の確保、地域の特色、広域的な取り組み。

### 【事業の名称等】

事業の名称		第10回安曇野市民スポーツ祭		
協働の形態		1. 共催            2. 事業協力（協定） 3. <b>実行委員会</b> 4. その他（        ）		
実施団体	相手側	安曇野市民スポーツ祭実行委員会		
	市側	教育部 生涯学習課 スポーツ推進担当		

市民スポーツ祭スポーツ体験

### 【事業の概要】

取組の背景・課題	「第2次安曇野市スポーツ推進計画」の「する」、「みる」、「ささえる」スポーツの機会を創出するとともに、競技団体と連携しスポーツの推進を図る必要がある。		
事業の目的	心身ともに健康で明るい市民生活を築くために、スポーツの魅力を発信し体位・体力の向上を図るとともに、スポーツを通して交流を深め連帯感を共有し、参加者の拡大と市民スポーツの一体感の醸成を図る。		
成果目標	参加者数 3,000人		
実施場所	安曇野市穂高会館	事業期間	令和元年6月～12月
事業の概要	① スポーツ体験型イベントの開催 6月28日（日）アスリート講演会、スポーツ団体の発表、スポーツ体験、スポーツ用品のリユース、健康チェックなど ② 種目別競技会の開催 6月～12月の間に、17種目の競技会を行う。		


### 【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	企画内容の提案、実施方法、準備、当日の運営
	相手側	実施団体の呼びかけ、種目別競技会事務局
	市側	会場、用品の手配、参加団体への連絡

### 【実施結果】

成果目標の達成状況	参加者数（スポーツ体験型イベント：1,500人、種目別競技会：2,136人）
協働による効果	それぞれの役割を果たす中で、効果的に実施し、参加者の拡大につながった。
課題・改善点	種目別競技会は参加者が減少傾向にあり、種目競技の広報活動や実施形態の検討が必要である。体験イベントは、イベント内容の固定化にならないよう、情報収集や工夫が必要となる。

### 【事業の名称等】

事業の名称		童謡祭り		
協働の形態		1. 共催                      2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会            4. その他（            ）		
実施団体	相手側	童謡祭り実行委員会		
	市側	教育部生涯学習課 社会教育担当		

### 【事業の概要】

取組の背景・課題	合併後町で行っていた事業を、合併後実行委員が事業を継承し続けている		
事業の目的	豊科出身の詩人でドイツ文学者だった藤森秀夫先生の業績を顕彰し、童謡の心を絶やすことなく伝えていくため		
成果目標	市内の小中学生を対象に作詞作曲コンクールを開催し、童謡祭りで表彰を行ったり、地元演奏や招待演奏を行う。		
実施場所	豊科公民館ホール	事業期間	4月1日 ~ 3月31日
事業の概要	市内の小中学生より応募いただく作詞作曲コンクールを開催し、童謡祭りで表彰を行ったり、地元演奏や招待演奏を行い藤森秀夫先生の業績を顕彰しつつ、「子どもに良い歌」を願って5月5日のこどもの日に童謡祭りを開催している。		

### 【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	当日の運営
	相手側	企画運営、予算管理、ポスター張り出し、学校とのやり取り
	市側	記念品等の発注、会議資料等の作成

### 【実施結果】

成果目標の達成状況	本年度も作詞作曲コンクールをはじめ、5月5日のこどもの日に第56回目の童謡祭りを開催した。
協働による効果	詞作曲コンクールをはじめ当日の合唱部の参加依頼等、ご理解いただける。
課題・改善点	会員及び今後の事業存続



### 【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市の歴史文化遺産の再発見事業	 <p>明科公民館での講座の開催</p>
協働の形態		1. 共催                      2. 事業協力（協定） 3. <b>実行委員会</b> 4. その他（            ）	
実施団体	相手側	安曇野市の歴史文化遺産再発見事業実行委員会	
	市側	教育委員会教育部 文化課 博物館係	

### 【事業の概要】

取組の背景・課題	近年、地域の歴史や文化に寄せる市民の関心も希薄化しつつある一方で、一部の有志団体では地域おこしの運動もみられるようになってきた。そこで、地域おこしの核となる歴史文化遺産を再発見する事業を行いたい。		
事業の目的	旧5町村の歴史文化遺産の魅力を発信する事業を5年間かけて行う。書籍の刊行や講座の開催等により、市民にわかりやすい形で発信し、地域の歴史文化遺産への関心を高めてもらうとともに、地域おこしの材料を提供する。 特に初年度となる平成31年度（令和元年度）は、明科地域を取り上げる。		
成果目標	書籍『明科の宝』を刊行する。また明科公民館と協働した講座を開催する。		
実施場所	豊科郷土博物館 ほか	事業期間	平成31年4月1日～令和元年3月31日
事業の概要	書籍『明科の宝』を刊行した。また明科公民館及び「明科いいまちつくろうかい!!」との協働で講座2回を開催し、実行委員会から講師を派遣した。		


### 【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	書籍『明科の宝』の刊行
	相手側	講座の講師の派遣、国庫補助金の事務
	市側	書籍『明科の宝』の執筆協力、講座の準備

### 【実施結果】

成果目標の達成状況	十分に達成できた。
協働による効果	明科地域に残る歴史文化遺産や関連する資料を紹介し、市民にその価値を紹介することができた。
課題・改善点	次年度以降も公民館等に講座等の協力を依頼できるようにしたい。

### 【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市ミュージアム活性化事業	
協働の形態		1. 共催            2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会    4. その他（        ）	
実施団体	相手側	安曇野市ミュージアム活性化事業	
	市側	教育部            文化課 文化振興 担当	

学校ミュージアムの様子

### 【事業の概要】

取組の背景・課題	公立館と私立館が協働して事業を行う		
事業の目的	市内に点在する美術館・博物館が連携し事業を行なうことで、地域文化振興の核としての役割を果たすこと、また安曇野市としての一体感の醸成に寄与すること		
成果目標	今年度計画した9つの事業の実施		
実施場所	市内各館	事業期間	R1.4.1～R2.3.31
事業の概要	(1) 安曇野ミュージアムギャラリートークリレー (2) 協働展示（交わるアート展「おでかけ展示～市内美術館と交わる～」） (3) 学校ミュージアム事業 (4) 出前展覧会事業 (5) 美術館博物館職員等研修会事業 (6) 信州大学連携 (7) スクールプログラム (8) ミュージアムサポーター (9) 令和元年度安曇野市ミュージアム活性化事業活動報告冊子の作製		


### 【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	実行委員会、専門部会
	相手側	実行委員会、専門部会
	市側	事務局、専門部会

### 【実施結果】

成果目標の達成状況	実施済み
協働による効果	公私館の連携をとりやすい。小中学校への参加を促しやすい
課題・改善点	各館で事業に対する温度差がある。

**【事業の名称等】**

事業の名称		季刊誌「安曇野文化」編集・刊行		
協働の形態		1. 共催      2. 事業協力 (協定) 3. 実行委員会   4. その他 (      )		
実施団体	相手側	安曇野文化刊行委員会		
	市側	教育 部      文化 課 文化振興 係		

安曇野文化

**【事業の概要】**

取組の背景・課題	季刊誌「安曇野文化」編集・刊行に伴う事務と編集補助を行う。 課題は執筆者選定と読者の確保が年々難しくなっていること。		
事業の目的	安曇野文化の編集・刊行		
成果目標	年 4 回発行		
実施場所	本庁舎・貞享義民記念館	事業期間	H31. 4. 1~R2. 3. 31
事業の概要	季刊誌「安曇野文化」の編集および刊行を行う。市側は編集補助と委員会実施に係る事務手続きを行う。		


**【協働の役割分担】**

役割 分担	一緒の取組	編集委員会、刊行委員会
	相手側	編集、刊行、送付、販売促進
	市側	広報活動

**【実施結果】**

成果目標の達成状況	年 4 回刊行
協働による効果	広く市民に周知ができる
課題・改善点	執筆者選定が困難

**【事業の名称等】**

事業の名称		第 15 回あづみの公園早春賦音楽祭		
協働の形態		1. 共催                      2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会    4. その他（              ）		
実施団体	相手側	早春賦音楽祭実行委員会		
	市側	教育 部              文化 課 文化振興 係		

音楽祭の様子

**【事業の概要】**

取組の背景・課題	早春賦音楽祭の実行にあたり、事務局運営を協働で行う		
事業の目的	早春賦音楽祭 実施		
成果目標	来園者 22,600 人		
実施場所	国営アルプスあづみの公園	事業期間	H31. 4. 1～R2. 3. 31
事業の概要	早春賦音楽祭の実施		


**【協働の役割分担】**

役割 分担	一緒の取組	実行委員会、事務局
	相手側	事務局
	市側	事務局補佐

**【実施結果】**

成果目標の達成状況	来園者 22,600 人
協働による効果	公用車の使用、小中学校への参加を促しやすい。
課題・改善点	業者の業務分担が不明瞭

### 【事業の名称等】

事業の名称		第 29 回 信州安曇野能楽鑑賞会	
協働の形態		1. 共催                      2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会      4. その他（              ）	
実施団体	相手側	信州安曇野薪能実行委員会	
	市側	教育部 文化課 文化振興担当	

能「鞍馬天狗」の一場面

### 【事業の概要】

取組の背景・課題	平成 3 年に「水郷明科薪能」として開催されたことを契機に、合併後も「信州安曇野薪能」として引き継がれ、例年開催してきた。また平成 28 年度には豊科公民館ホールを会場とし、「信州安曇野能楽鑑賞会」と名称を改めて開催した。名誉市民である故 青木祥二郎師の顕彰事業（現在は子息の青木道喜師が主宰）として、市民が一流の文化芸術にふれる貴重な機会となっている。		
事業の目的	格調高い能楽公演の実施を通して、安曇野市名誉市民で観世流能楽師として重要無形文化財保持者の栄誉を受けられた故青木祥二郎師（安曇野市明科中川手出身）の業績を顕彰し、安曇野市の芸術文化の向上並びに観光振興を図ることを目的とする。		
成果目標	観客数 600 人（最大収容人数）		
実施場所	豊科公民館ホール	事業期間	令和元年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日
事業の概要	講演の期日 令和元年 8 月 24 日 午後 2 時 ～ 午後 5 時 30 分 <b>【演目・主な出演者】</b> (1) 能 「半部」 片山九郎右衛門、宝生欣哉 (2) 狂言「咲嘩」 出演：野村萬、野村万蔵、野村万之丞 (3) 能 「鞍馬天狗 白頭」 出演：青木道喜、宝生欣哉		

### 【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	広報、企業への協賛依頼、当日の運営
	相手側	入場券販売、印刷物校正
	市側	補助金交付、各種業務の発注、会計事務

### 【実施結果】

成果目標の達成状況	入場者数 470 人
協働による効果	当事業は、収入面を各企業からの協賛金及び入場券の売りに頼っているが、各実行委員の協力により、協賛依頼や入場券販売を行うことができた。また、当日においても役割分担を行い、事業の運営をスムーズに行う事ができた。
課題・改善点	令和 2 年度の開催場所は明科龍門淵公園での薪能（屋外開催）予定である。屋外で開催する場合、屋内開催と比べて費用、人足、準備にかかる所要時間等が大きくなるため、これらの課題を解決できるよう検討する必要がある。

発行日：令和2年4月30日

編集・発行：安曇野市役所 市民生活部 地域づくり課  
まちづくり推進係（本庁舎2階4番窓口）

住所：〒399-8281 安曇野市豊科6000番地

電話：0263-71-2494（直通） FAX：0263-72-3176